

国立大学法人奈良教育大学と奈良県教育委員会との連携協力に関する協定

目的

大学及び教育委員会が、教職員の資質向上を図るとともに広く教育に関する諸課題に対応するため、組織的、継続的に相互に連携協力して教育研究の充実、発展に寄与する。

○ 連携協力の内容

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育に係る共同研究に関する事項
- (4) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (5) その他両者が必要と認める事項

○ 教職員の人事交流

○ 教職員及び教員採用候補者の派遣・受入れ



連携協議会の設置



専門部会の設置(奈良県の教育課題等と合致)

- ・英語教育部会
- ・ICT教育部会
- ・高大接続部会
- ・教員研修部会
- ・へき地教育部会

奈良教育大学経営協議会(大学主催)

- 学長
- 理事・副学長(教育担当)
- 理事(総務担当・事務局長)
- 副学長(企画担当)
- 副学長(研究担当)
- 学外委員(6名)

※県教委教育長が学外委員として参加



奈良県教員等育成協議会(県教委主催)

- 教育長・教育次長・教育研究所長
- 教員養成課程を有する大学の代表
- ※奈良教育大学理事・副学長が参加
- 奈良県PTA協議会代表
- 奈良県高等学校PTA協議会代表
- 都市教育長協議会代表
- 町村教育長会代表
- 国公立幼稚園・こども園長会代表
- 校長会代表(小・中・高・特支)

奈良県公立学校教員採用候補者選考試験合格者に対する特例措置について

背景

<奈良県教育委員会において>

- ・将来的にすべての新人教員を教職大学院修了レベルに引き上げ、県の教育水準の向上をさらに推進すること。
- ・GIGAスクール構想のインフラが整った中、ICT活用能力の高い新人教員を求めていること。
- ・その他、喫緊の課題として、インクルーシブ教育、小学校英語教育に強い新人教員を求めていること。
- ・初任者研修に係る新人教員・指導教員の負担軽減等、働き方改革の推進を図ること。

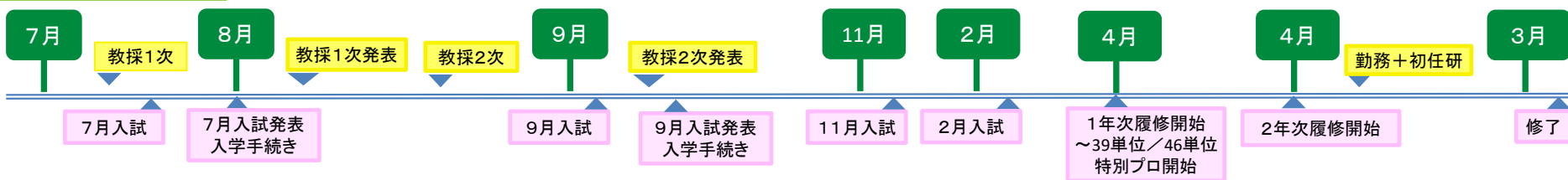
<奈良教育大学教職大学院において>

- ・高度な実践力と奈良県が抱える喫緊の課題に対応できる力を持つ新人教員を奈良県に輩出すること。
- ・大学院進学のための採用猶予措置を活用する教採合格者が少なかったこと。→早く教壇に立ちたいという希望。授業料負担。
- ・教採不合格者や未受検者が入学する状況にあり、「教員養成の高度化」の趣旨とズレがあったこと。
- ・安定的な入学者の確保。

概要

- ・奈良県採用試験に合格し、奈良教育大学教職大学院にも合格した場合、1年目は採用が留保され、2年目に採用される。
- ・2年目は勤務し、残りの科目、実習、学位研究報告書の作成は、オンライン・休日活用や大学院教員が出向いて指導・学修する。
- ・初任研の内容と時間を軽減する。そのため、当該院生には1年目に特別プログラム（ICT、インクルーシブ、小学校英語）を実施する。
- ・2年次の授業料は免除する（大学負担）。1年次の授業料は採用後に納入できる。
- ・教採1次試験直後に実施される教職大学院7月入試に合格すると、教採2次試験で最大15点の加点が得られる。
- ・教採最終合格した後、本特例措置を希望することとなった者は11月入試を受験する。そこでは入試科目が一部免除される。

スケジュール



成果（対象院生の声）

<https://www.youtube.com/watch?v=gn004KFU3LE>



今後の課題

- ・対象を小学校・特別支援学校のみから全校種へ（現在協議中）。
- ・本特例措置を受けた者の資質・能力の評価。
- ・軽減する初任研の時間・内容（現在検討中）。

奈良県教員採用試験合格者のための「特例措置」
「教育DX・情報活用指導力養成」
特別プログラム

今の時代の教育におけるICTの解釈

Independent
Interactive
主体的・対話的

Collaboration
Creativity
協働的・創造的

Transformation
変容・変革

教員としての資質向上とこれからの教育の即戦力の育成

自ら学ぶ子どもを育てるための授業力育成

クラウドコンテンツを教育で活用し、子どもたちが自分で学ぶ機会の確保や学習法に関する理論と指導力の育成

最適な学びのためのデジタルツール活用

全国で活用されている、各種のデジタルツールやシンキングツールを教育で活用するための理論と指導力の育成

先端テクノロジーを用いた教育データ活用

Google for Education、デジタルボード、AI、VR等の、最先端のテクノロジーを活用した教育の理論と指導力の育成

多様な学びを実現するオンライン活用

学校の授業中、登校できない状況にある子ども、遠隔地の子どもに対するオンライン教育を行う理論と指導力の育成

全国の教員やプロ人材・先端企業との交流

全国の教員や世界をリードするプロ人材と交流を深め、最先端企業とのコラボによる調査、研究、教材開発を行う。

2021年度に実施してきたこと

1. Google for Education を活用するための実践研修
2. 県内教員に対する研修・セミナー講師
 - a. 学内外の学部生に対する研修・セミナー講師
 - b. 大学教員に対する研修・セミナー講師
3. 学会、教育委員会、他大学、民間団体主催のセミナー等に参加
 - a. 東北大学、大阪教育大学、愛知教育大学、慶応大学等
 - b. 県及び市町村教育委員会におけるオンラインセミナー等に参加
4. オンライン自主研修プログラム『鹿の穴プロジェクト』
5. Google、Softbank、Amazon 等のICT企業との共同研究プロジェクトに参加
6. 小・中学校における全学年を対象としたプログラミング教育授業実践（実習）
7. 海外教育委員会との国際ミーティング参加
8. 学校訪問、ICT企業訪問

Year Planning



◆「鹿の穴」プロジェクト

<https://spark.adobe.com/page/aUytlI1xCILxXt/>

忙しい学生生活の中で、
いつでも、どこでも、自由に、何度でも、
自分自身の力で学ぶためのオンラインプロジェクトです。

- 教員として教育DXに強くなる=スキルアップ
- 児童生徒のオンライン学習の意義と効果について考える
- これからの教員の研修のあり方について考える
- 教育の情報化を推進し、子どもたち自らの学びを促進する教員になる

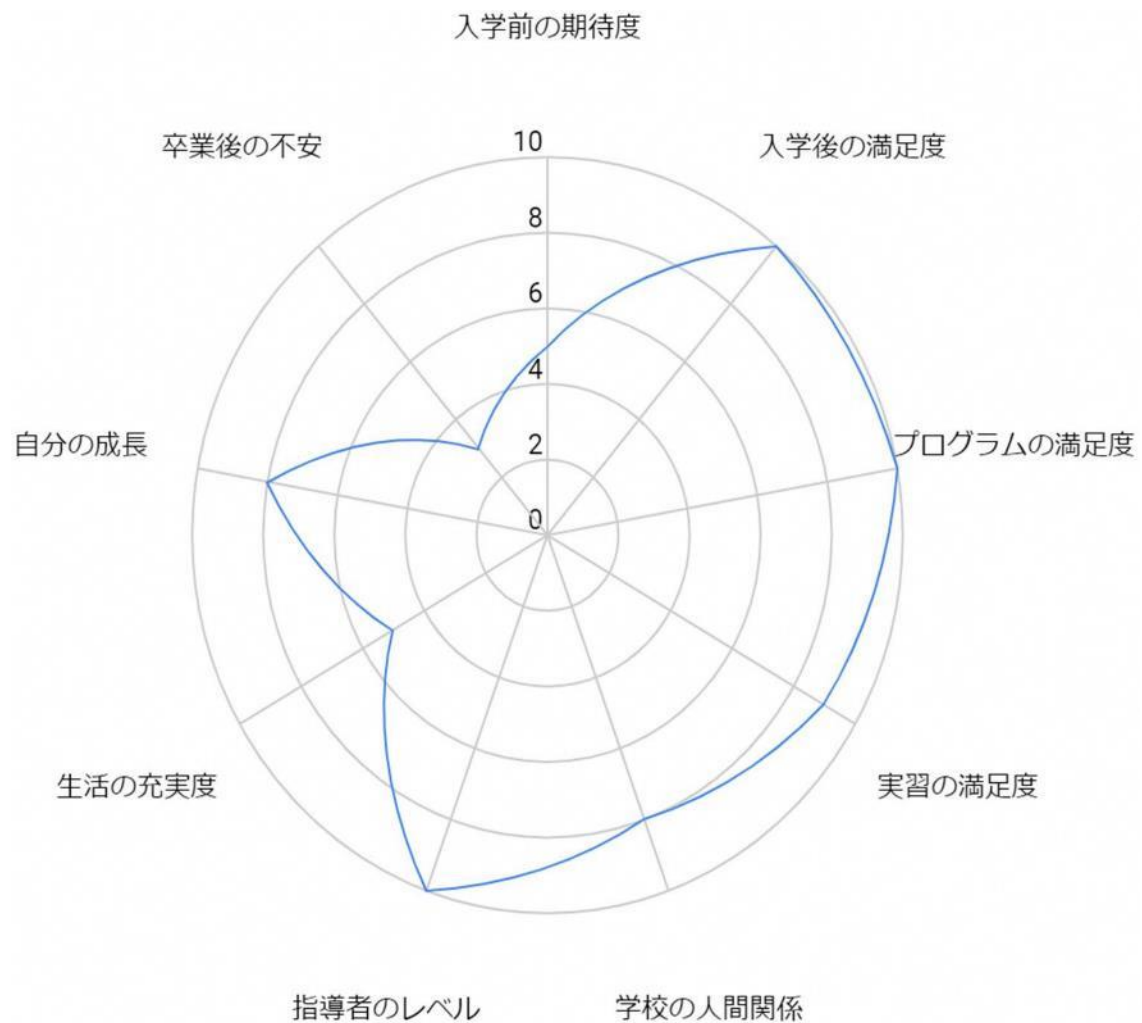


◆特例措置学生の思い

<https://youtu.be/gn004KFU3LE>

- 令和3年度特例措置の学生が
前半半年の経験を語っている動画です。





教育DX・情報活用指導力養成コース
 学生のアンケート回答(2021.12)

奈良県教員採用試験合格者のための「特例措置」
「特別支援教育力養成」特別プログラム

目的：奈良県における喫緊の課題の一つに挙げられている小学校や特別支援学校における特別支援教育に焦点化し、高度で実践的な教育力を養う

【修得が期待できる専門性】

- ・インクルーシブ教育システムの理念及びその構築に関わる現状と課題について理解する。
- ・児童生徒の教育的ニーズを複合領域(例えば、教育学、医学、心理学等)の知識や技術を用いて理解する。
- ・個々の教育的ニーズから適切な指導のための方針を立て、指導実践に活用することができる。
- ・学校内外の支援システムや専門機関と連携することの重要性を理解し、専門家と課題解決のための方針を立て、的確な説明ができる。

院生の現在の興味
実際の学び

2年間のロードマップの協働作成

特別プログラム院生における

特別支援教育コースの提供科目

- | | |
|---|--|
| 重度障害児の理解と支援 (木下)
特別支援アセスメント事例研究 (堀田・全・木下)
特別支援教育の教育課程・授業論 (堀田)
特別支援教育のシステム論 (越野)
特別支援教育の心理学 (中西)
発達障害児の理解と支援 (全) | LD児・ADHD児の理解と支援 (山本智)
自閉症児の理解と支援 (富井)
特別支援学校・学級経営論 (木下)
特別支援教育の生理・病理 (全)
特別支援教育コーディネーター論 (堀田・全・木下) |
|---|--|

※課題探求実習

※特別支援教育にかかる優れた取組を行っている連携協力校における実習

課題解決実習

学校勤務 (初任者として配置)

特別支援教育について学んでいく中でわからないことが何かがわかり、教員としてどのようなことを培う必要があるのかが見えてきました。今は、あの時のあの子どもの姿が、大学院や研修を通じて学んだ、「あのことだったんだ…」と“わかる”経験の毎日とても充実しています。現在の具体的な目標は、個別の支援の在り方やアセスメントの方法への理解を深めたいと思っています。目の前の子どもが何に悩み苦しんでいるのか、そのことを探る視点が段々と明確になってきました。考え方の違い、認識の違いがある現実を前にし、もっと自分を磨きたいと思えるようにもなりました。保護者と教員が共に子どものことを大切に、成長し合いながら理解していく姿勢が大切だと感じています。

奈良県教育委員会・教育研究所・特別支援学校
・本学特別支援教育研究センター主催の研修講座

- ・宿題おたすけプロジェクト
- ・インクルーシブ教育システム推進研修講座、通級による指導担当者育成研修講座、
- ・発達障害のある子どもへの指導の在り方研修講座、特別支援学級担任サポート研修

担当者による定期的な指導(隔週に1度程度)
教育や福祉現場・専門機関等への訪問観察及び特別授業(一部延期)

入学

1年目

2年目

従来の学び

学位研究報告

特別プログラム



小学校外国語教育 実践力養成プログラム

12

目 標

奈良県教育における喫緊の課題の一つに挙げられている小学校外国語教育に焦点化し、初任、現職教員を対象に高度な教育実践力を養う。

- (1) 外国語教育に関わる理論を踏まえて、適切な指導計画を立てることができる。
- (2) 指導体制に応じた指導案を作成し、ALT等と連携を取りながら授業を実践できる。
- (3) 児童の実態に合う独自の教材を開発し、効果的に使うことができる。
- (4) 指導計画、指導案、学習評価、教材の意義や使い方を管理職や同僚教員に説明することができる。
- (5) 外国語に関する職員研修を計画、運営（講師等含む）することができる。
- (6) 主に目標言語を用いて授業を行うことができる程度の言語運用能力を身に付けている。

内 容

■ 教科教育コースで小学校外国語を研究する院生対象プログラム「虎の穴」

- ・ 英語でゼミ
各院生の英語力に応じて英語で発表・討論
- ・ 合宿実習
英語キャンプをしながら先進的な取り組みを行う小学校で実習
- ・ 先進的な教育実践観察・授業研究への参加
椿井小学校、奈良女子大附属中等教育学校、県立国際高校など校種横断的に
- ・ 外国語教育に関する学会、研究会参加（発表）
小学校英語教育学会などでの発表、県内教員対象研修の運営・参加
- ・ 英語による最終成果物「学位研究報告書」の作成

■ 特例措置全院生対象プログラム

- ・ 現職教員研修への参加
奈良県教育委員会・奈良教育大学「英語指導パワーアップ講座」「えいごせんかふえ」等
- ・ 英語力養成プログラム
英検等の資格取得の支援
- ・ 外国語（活動）授業力向上支援（1年次実習授業、2年次勤務校授業）
外国語科・外国語活動の授業を学校現場で指導



えいごせんかふえ

英語専科の先生、ALTの先生の研修・情報交換会

• つながる

プチ実践交流、ブレイクスルーセッション

• まなぶ

ミニレクチャー、チャットタイム

• ふりかえる

レッスンスタディ、ポートフォリオ



概要

Overview



だれが

Who ?

- 外国語専科の先生
- ALTの先生
- (大学院生)



いつ、どこで

When ? Where ?

- 12月16日 対面（奈良県立教育研究所）専科教員連絡協議会
- 1月13日（木） 17:00～ オンライン
- 2月4日（金） 17:00～ オンライン
- 3月1日（火） 17:00～ オンライン
- 3月19日（土） 10:00～ 対面（奈良教育大学）



参加するには

How to apply ?

- Classroomで案内を共有
- 奈良教育大学 前田康二
maedakoji@cc.nara-edu.ac.jpまで、メールでお名前、
学校名をお知らせください。



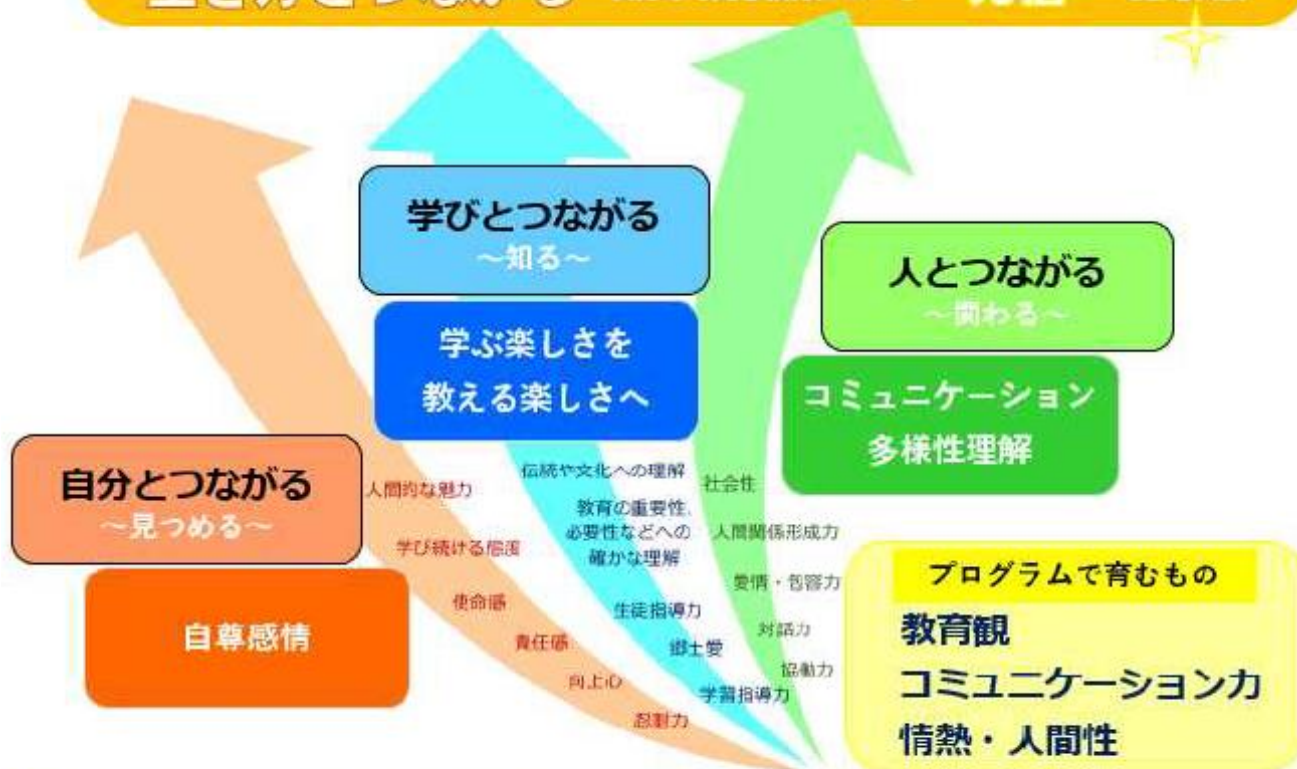
参加お待ちしております

前田康二 (Maeda Koji)
maedakoji@cc.nara-edu.ac.jp

奈良教育大学

夢を確かな目標につなげる ～自分の目指す理想の教員像の構築～

生き方とつながる 自分の考える教育について “発信” できる人間



子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるために・・・

奈良県教育委員会は「学ぶ意欲」を持ち続ける先生を募集しています。



前期プログラム
(高校生対象)
1期生 75名
2期生 42名
3期生 102名
4期生 86名

後期プログラム
(大学生対象)
1期生 40名
2期生 15名
(受講決定時)



奈良県次世代教員養成塾

夢を確かな目標につなげる ～自分の目指す理想の教員像の構築～

開催月等	ハートナリティ・資質に関する内容		字能力・授業力に関する内容		キャリアデザインに関する内容		担当大学等	各講座の内容及び目標	授業の形態等			各講座のテーマ
	自分とつながる	人(仲間・社会)とつながる	学びとつながる	生き方とつながる	交流する	体験する			振り返る ※各回の講義の振り返りは必ず含む			
	自尊感情 (自己理解能力)	コミュニケーション 多様性理解 (人間関係能力)	学ぶ楽しさを 教える楽しさへ (専門的知識)	キャリアデザイン (キャリア開発力)								
高校2年生	10	◎	◎	◎	◎	◎	奈良教育大学	・自分の目指す理想の教員像について考えをまとめ、プログラムの参加に対する意欲を高める。	今までに出会った先生について	教壇に関する自己理解を支援ツール等を活用して行う	教員になるための学びについて	第1回 カイダンス・教壇へのビジョン
	11	◎	◎	◎	◎	◎	奈良学園大学	・大切だと分かっているも実行できない理由や、道徳的価値に対する考え方は多様であることを理解する。	自分とは違う考え方に触れた経験について	道徳的模範授業を受ける	これまででの自分の物の見方、考え方について	第2回 人間理解・他者理解を深める
	12	◎	◎	◎	◎	◎	奈良女子大学	・奈良県の地域性や特徴についての考えを交流し、郷土を誇りに思う心を育成することの大切さを理解する。	小・中学校での郷土教育の経験について	奈良を紹介する模範スピーチを行う	郷土としての奈良の魅力について	第3回 郷土を愛することについて
	1	◎	◎	◎	◎	◎	大和大学	・アクティビティ等を通して外国語を学ぶ楽しさや、外国語教育の必要性を理解するための視点をもちたせる。	言語や文化と自分の関わりについて	外国語活動の模範授業を受ける	コミュニケーションの能力とは何かについて	第4回 外国語とコミュニケーション
	2	◎	◎	◎	◎	◎	奈良教育大学	・教壇になるために、さらに伸ばしたい自分の長所、これから身につけたい資質能力について考えをまとめる。	小学校現場の状況について	小・中学校の現場教師との対話	身につけたい資質能力について、話し合う	先生の仕事の奥の深さについて
高校3年生	4	◎	◎	◎	◎	◎	畿央大学	・小学校も年間の発達特性を自分の成長を振り返りながら考え、子ども達が学ぶ内容は発達に即して定められることを理解する。	自分の小学校の講義のEBCボードについて	発達障害に合わせた授業の経験について	子どもの遊びや体験と発達との関係について	第6回 私も小学生だった
	5	◎	◎	◎	◎	◎	奈良教育大学	・自然科学を学ぶ楽しさや意義について交流し、学ぶ楽しさを教える楽しさにつなげるための視点をもちたせる。	自分の好きだった教科や単元について	授業の実践を体験する	自然科学をなぜ学ぶのかについて	第7回 「理科」は好きですか
	6	◎	◎	◎	◎	◎	福徳山大学	・このからの学校に必要とされる教員になるために、学生の関心についておきたい学びや経験・体験等を目標として構築させる。	授業や制作した作品について	伝統的な定型的な作法や従来の紹介方法を体験する	人文科学を学ぶ楽しさについて	第8回 知恵・掛詞を学び、作ってみよう 絵本を紹介しよう
	7	◎	◎	◎	◎	◎	奈良教育大学	・これまでの学びをもちに、自分の目指す理想の教員像についての意欲や、理想に沿ったためのライフプランを説明とさせる。	大学生の関心領域について	模範プレゼンテーション	自分の関心領域と就職したいこととのつながりについて	第9回 大学生になったらすべきこと
	8	◎	◎	◎	◎	◎	全大学		プレゼンテーション	自分の理想の教員像について	第10回 私の理想の先生像	
大学1年生	前期プログラム ・高校生のキャリアデザインに資する内容にする。 ・各回で受講生に伸ばしたい力を明確にし、その力を付ける内容にする。 ・各回の中に必ず「交流・体験・振り返り」の時間を設ける。 ・「学習者」としての多様な経験が教育観を育むという観点から、「学ぶことの楽しさ」を基礎に「教えることの楽しさ」につながる内容にする。		教壇に向けた大学の学びについて考えをまとめ、後期プログラムの参加に対する意欲を高める。		教壇に向けた大学の学びについて考えをまとめ、後期プログラムの参加に対する意欲を高める。		奈良教育大学	教壇に向けた大学の学びについて考えをまとめ、後期プログラムの参加に対する意欲を高める。	教壇に向けた大学の学びについて考えをまとめ、後期プログラムの参加に対する意欲を高める。	教壇に向けた大学の学びについて考えをまとめ、後期プログラムの参加に対する意欲を高める。	教壇に向けた大学の学びについて考えをまとめ、後期プログラムの参加に対する意欲を高める。	開講式・教壇に向けての大学での取組
大学2年生	後期プログラム ・自らの考え、自らの言葉で表現する(書く、説明する等)活動を重視する。 ・小学校教員や、教員を目指す大学生と交流する場を設ける。		教壇に求められる力について大学の学びを振り返り、考えをまとめる。今後の教壇へのビジョンについて再構築する。		教壇に求められる力について大学の学びを振り返り、考えをまとめる。今後の教壇へのビジョンについて再構築する。		奈良教育大学	教壇に求められる力について大学の学びを振り返り、考えをまとめる。今後の教壇へのビジョンについて再構築する。	教壇に求められる力について大学の学びを振り返り、考えをまとめる。今後の教壇へのビジョンについて再構築する。	教壇に求められる力について大学の学びを振り返り、考えをまとめる。今後の教壇へのビジョンについて再構築する。	教壇に求められる力について大学の学びを振り返り、考えをまとめる。今後の教壇へのビジョンについて再構築する。	カイダンス・教壇へのビジョン
大学3年生	後期プログラム ・大学在籍中に行う自主的な活動や、大学生のキャリアデザインに資する取組 ・伸ばすべき力の明確化 ・自らの考えを表現する(書く、説明する等)活動 ・若手の小学校教員との交流等を通じた学校現場の現状や今日的課題についての理解深化		授業力向上のための専門的要素について理解し、これまで身に付けた教壇に求められる力について振り返る。		授業力向上のための専門的要素について理解し、これまで身に付けた教壇に求められる力について振り返る。		奈良教育大学	授業力向上のための専門的要素について理解し、これまで身に付けた教壇に求められる力について振り返る。	授業力向上のための専門的要素について理解し、これまで身に付けた教壇に求められる力について振り返る。	授業力向上のための専門的要素について理解し、これまで身に付けた教壇に求められる力について振り返る。	授業力向上のための専門的要素について理解し、これまで身に付けた教壇に求められる力について振り返る。	開講式
大学4年							奈良教育大学					

学習者としての成長

指導者としての基礎形成

第1回講座(令和3年10月2日 奈良教育大学)

○開講式 ○ガイダンス・教職へのビジョン



第2回講座(令和3年11月6日 奈良学園大学)

○人間理解・他者理解を深める



第4回講座(令和4年1月8日 大和大学)

○外国語とコミュニケーション



※第3回講座「郷土を愛することについて」は
オンデマンドによる開催



ご清聴ありがとうございました